会見日時：令和８年５月19日 火曜日 10時30分～11時00分
会見場所：県庁第二特別会議室
会 見 者：玉城知事

【広報監】:これより定例記者会見を開催します。本日は知事より発表事項が3件ございます。知事の発言の後、発表事項に関する質問をお受けいたします。それでは知事よろしくお願いいたします。

【知事】:ハイサイ、グスーヨー、チューガナビラ。皆さんおはようございます。ではまず発表事項から読み上げたいと思います。まず、「世界自然遺産の登録5周年記念事業」についてお伝えいたします。

令和3年7月26日に、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産として登録されてから、本年は5周年という節目を迎えます。これらの地域は、固有種が数多く生息・生育する豊かな自然環境を有し、その「生物多様性」の普遍的価値が世界に認められたことから、世界自然遺産として登録されました。これまで国、県、遺産地域の12市町村が連携し、地域の方々と共に合意形成を図りながら、このかけがえのない自然を守り育んできたところです。

本5周年を記念しまして、沖縄県と鹿児島県の共催で、7月25日、26日の両日、「登録5周年記念まるごと世界自然遺産！奄美・沖縄12市町村アイランドマルシェ」と称し、パレットくもじ前広場、琉球新報本社ビル、県民広場の3つの会場で、遺産4地域12市町村の自然環境の保全・活用の取組や魅力などを発信する合同物産展などを開催いたします。また、環境省や林野庁、登録地域自治体で構成される地域連絡会議の主催でシンポジウムなども開催する予定です。

さらに8月には、遺産地域全体への理解を深め、次世代への継承に繋げる取組として、県内の中学生が奄美を訪問し、現地の中学生との交流事業を実施いたします。私たちの宝であり、誇りである自然環境を次世代に繋いでいくためには、人々がその価値を認識し、守るための行動に繋げることが重要です。自然遺産登録から5周年の節目を捉え、改めてその価値について考える機会を創出してまいります。

【知事】:「「てぃるる」塾第8期塾生の募集」についてお伝えいたします。沖縄県では、女性のステップアップや多種多様なネットワーク作りを応援するため、令和元年度より私が塾長となり、女性人材育成講座「てぃるる塾」を開講しています。8期目となる今年度は、９月10日に開講予定としており、現在、塾生を募集しております。「てぃるる塾」は県内に在住し、ご自身のキャリアアップに意欲のある、性自認が女性の方も含む40代までの成人女性を対象に、ダイバーシティマインドやコミュニケーション力、ロジカル系スキルなどの向上を図る講座内

容となっており、家庭、職場、地域それぞれの場で活躍できる人材の育成を目指しています。今年度の講師陣は沖縄キリスト教学院大学異文化コミュニケーション研究科科長の新垣誠先生をはじめ、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授の玉城絵美先生、法政大学経営大学院教授の高田朝子先生、また、県内で活躍されている女性リーダーとして、琉球新報社取締役の島洋子さんなど、各分野の第一線で活躍されている方々となっています。また、今年度からは、遠方にお住まいの方に向けてオンラインでの受講を可能としている他、離島地域在住の方は、おきなわ女性財団から一部旅費の補助が受けられるようになっています。募集期間は、5月18日から7月17日までとなっております。是非、多くの方々にこの「てぃるる塾」にご応募いただき、幅広いネットワークを作り、自らの持てる力を十分に発揮するきっかけにしていただけたらと考えていますので、奮ってご参加ご応募ください。

【知事】:次に、「自動車税の納期内納付の呼びかけ」についてお伝えいたします。毎年5月は自動車税の納付月です。令和8年度の納税通知書は5月1日に発送しています。納期限は6月1日月曜日となっています。すでに皆様のお手元に届いているかと思いますが、納税通知書は一目で確認ができるよう、サクラ色の封筒を使用しています。令和8年度の自動車税は県税収入の約9.3%、金額にして約166億円を見込んでいます。自動車税をはじめとする県税は、道路の整備や子供の貧困対策、教育、文化、スポーツの振興など、県民の皆様の暮らしを支える様々な行政サービスに活用させていただいています。沖縄県の納期内納付率は年々上昇し、昨年度は89.8%と、全国や九州と比べても非常に高い水準となっております。県では、キャッシュレス納付の推進に取り組んでおり、金融機関、県内の郵便局、コンビニ、クレジットカードやネットバンキング、電子マネーなど、ご自身の生活スタイルにあった、様々な納付方法を選ぶことができます。なお、特別な事情により、期限内に納付が困難という方は、管轄の県税事務所へお早めにご相談ください。納期内納付率の向上を図ることにより、沖縄振興に必要な自主財源の確保に努めていきたいと考えております。納付がまだの方は期限内の納付についてご協力をよろしくお願いいたします。発表事項は以上となっております。

【広報監】:それでは発表事項に関する質問をお受けします。まず県内幹事社お願いいたします。

【記者】:「てぃるる塾」について、今回第8期ということで、これまでの参加人数だったり、成果と、今回8期に期待したいことがあればお願いします。

【知事】:これまで7年間で、178名の修了生を輩出しています。ちなみに各年度で数字を見てみますと、令和元年で46名、令和2年22名、令和3年19名、令和4年20名、令和5年31名、令和6

年26名、令和7年14名ということになっております。過去の修了生には、この「てぃるる塾」で得た経験やネットワークを生かして起業された方、それから市町村議員になられた方、あるいはご自身のそれぞれの職場でこのスキルを磨くことによってステップアップされた方など、多くの活躍を耳にしています。ちなみに、議員になられた方は、1期生で那覇市議会議員の山田マドカさん、それから2期生で那覇市議会議員の下地ななえさんなど、本当にいろんな分野で、それぞれの活躍の場を広げることに役立てていただいてるんだろうなというように受け止めております。

【広報監】:次に県外幹事社お願いします。

【記者】:「てぃるる塾」についてお伺いします。この旅費の補助についてなんですけれども、こちらは新設ということでよろしかったかということと、詳細、どういった制度なのかというのを教えていただきたいのと、あとこれ女性支援における離島格差解消なのではないかなという風に思うんですが、この狙いと期待するところを教えていただければと思います。

【知事】:まず、旅費の補助についてですけども、概ね旅費補助の対象は8名から10名程度となっているようですが、1回あたりの上限は2万円としておりまして、2万円×3回分を概ね補助の目安としているということで、おきなわ女性財団からそのように話を伺っています。それから、もう1点は、離島格差の解消ということで、今回はオンラインでの参加も可能としているということなど、例えば何回か、その半年間にわたって講座を設けますけれども、例えばこの日だけはどうしても来れないというような場合とか、そういう場合にオンラインでも受講できますよということですので、離島にお住まいの方々にも是非奮ってご参加いただければというような形に今回はさせていただきました。

【広報監】:それでは幹事社以外の記者の方から発表事項に関する質問をお受けいたします。質問ございますでしょうか？よろしいでしょうか？それでは続いて発表事項以外の質問に移ります。県内幹事社お願いします。

【記者】:先週の米中首脳会談では、台湾を巡る問題について中国の習主席が、「対応を誤れば両国は衝突し、非常に危険な状態に陥る」と強く牽制した一方で、アメリカの発表では台湾について触れませんでした。台湾有事への懸念が続く中、アメリカ軍基地が集中する沖縄として、知事は今回の会談をどう受け止めたのか教えてください。

【知事】:去る5月14日に行われた米中首脳会談について、中国の報道機関においては、習主席

が台湾問題について「適切に処理されなければ両国は衝突し、中米関係全体を非常に危険な状況に追い込む」と述べたこと、あるいはトランプ大統領が「米中関係はかつてないほど良好になるだろう」と強調し、「困難な時期でも我々はうまくやってきた」と述べたことについて、中国の報道機関から報道があったということは承知しております。一方で米側の発表では台湾問題については触れられておらず、両国の経済の協力強化策の話し合いですとか、ホルムズ海峡についての認識の一致がなされたという報道があったと承知しております。沖縄県としては、アジア太平洋地域の緊張が高まり、不測の事態が生ずることは決してあってはならないと考えておりますし、今後とも、米中両国のみならず関係国や地域が、平和的な外交や対話の積み重ねることによって、緊張の緩和と信頼関係の構築に繋げていっていただきたいということを望むものであります。

【広報監】:次に県外幹事社お願いします。

【記者】:昨日、れいわ新選組の元衆議院議員の山川仁さんが、政治団体を作るということで会見されました。辺野古移設反対に加えて、那覇軍港の浦添移設、南西シフト、防衛強化についても議論の俎上に上げていこうという趣旨のお話をされていました。この2つの問題について、知事を支持される方の中にも、お考えにグラデーションがある問題なのかなという風に思うんですが、知事選に向けて、知事ご自身がそういった声にどのように向き合っていかれるのかお考えをお願いします。

【知事】:まさに今おっしゃるように、私を支援していただいてる方々の中にも、それぞれの問題に対する捉え方と取組がグラデーションがある、ということはその通りだと私も認識をしております。ただ、山川さんが昨日記者会見を行ったということで、少しその会見の記録も読ませていただき、目を通しましたけれども、これから色々協議をしていくということでの、まずはスタートラインに立ったということなのかなという印象ですね。知事選についても、例えば辺野古については、明確に賛否はお互いが明らかにしていますので、ではその山川さんが立ち上げた政策集団はその賛否のどちらなのかということは、自ずと問われることになるだろうと思います。ですから、ある程度これから考え方をまとめながら、いろんな方々と協力関係を構築していきたいという方向性なのだろうなと、昨日の会見を見させていただいた、今の段階にもそのような印象を受けております。

【広報監】:それでは幹事社以外の記者の皆様から質問をお受けいたします。質問はございますか。

【記者】:昨日、国の振興予算をめぐって、県と市町村の意見交換があったと思うんですけれども、その中で、去年までは県と市町村それぞれで要請していたものを、一本化したいと県側から呼びかけがあったと聞いております。市町村からは、「持ち帰りたい」というような反応だったとのことですが、出席した首長からは、なぜ今このタイミングで一緒にやりたいという言うのか意図が分からないという反応があるんですが、狙いや背景について聞かせてください。

【知事】:県としては、従来から国に対する要望が、同じ方向性あるいはほぼ内容が重なることであれば一緒に要望しましょう、ということで呼びかけていましたので、突然、急にということではなく、兼ねてから要請する時には一緒にどうですか、というような呼びかけをしたということですので、それ以外の他意はないということです。できれば、私たち沖縄県としては、広域自治体、あるいは自治体と自治体を繋げるパイプ役も担っているということからも、市町村と県が考えている課題や問題点などについては、しっかりと双方が認識をした上で必要であれば国に要請をするという形を取るのは、ごく自然な方法だろうというように思っていますので、これからも違和感なく、そのような取組が進められたらありがたいなというように思います。

【記者】:背景として、それぞれ別でやるというのは、政局というか、新基地問題で県と国が対立しているからという背景があるという風な認識もお持ちでしょうか。

【知事】:そのことについては、それぞれの首長さんのお考えがあるだろうというように思いますので、特にそれがいいとか悪いとかという、そういう判断にはならないだろうと思います。要は、住民の方々の生活を安定させ、将来に期待のある、そういう施策をやっぱり実行したい、今ある課題を解決して、将来性のある方向性で望みたいということであれば、それは県としても全く違和感のないところですので、そういう一致協力できるところもたくさんあると思っていますから、それは別に基地問題云々ということでの、正対するというか、背中を向けるというようなことではないだろうというように私は捉えています。

【広報監】:他に質問はございますか？

【記者】:辺野古の転覆事故と知事選について伺いたいと思います。一昨日ですけれども、共産党の演説会が開かれまして、田村委員長が演説の冒頭に、転覆事故を起こした船を運航するヘリ基地反対協議会の構成団体だということで、党を代表して謝罪をされました。知事も参加されて、知事がご退席された後だったと思うんですが。地区委員会が構成団体というわけなん

ですけれども、党のトップとして委員長が謝罪されたということについてどのように受け止めていらっしゃるのかというのを伺えればと思います。

【知事】:ヘリ基地反対協の構成団体が、今回の事故の件について、安全管理体制への強い懸念と反省を持っているということは報道等によって承知をしていますし、先だっては、共産党の田村委員長もそのような、つまり、「猛省しなければならない」という立場からのご発言であったであろうというように思います。ですから、そこは構成団体において、やはり今回の事故における原因の追及と、そしてその団体もご遺族に対して、謝罪の意をきちんとお伝えしたいというような思いも持っていらっしゃるということも伺っておりますので、物事を丁寧に解決していくための努力は、それぞれ皆さんがしっかりと認識をしていただいているというように私もそのように受け止めました。

【記者】:演説ではその冒頭の謝罪の後に、いろんな話に話題が及んだんですけれども、中央政界の話であるとか、防衛政策の話、それから秋の知事選についても話が及びました。知事選に関しては、共産党として3期目を目指す玉城知事を応援しようと、前に進めようと、いうような表明をされました。その転覆事故に関与した党の支援を受けるということについて、知事選への影響があるかどうか、どのように感じておられるのか率直に伺えればと思います。

【知事】:様々な関係者の方々、政党や団体を含むそういう関係者の方々が、私に対して支援をしたいということを表明していただけるのは、私個人としては非常にありがたいなと思います。そのことと、今回の事故が起こった原因や、2度とそのような痛ましい事態を生じさせないための取組というのは、それぞれまた個別で検討され、しっかりとそれが実行されていくべきであろうと思いますので、そのことを明確にしていただくことは非常に重要なことだと思っております。そうすることによって、県民の皆さんにもきちんとした対応がなされているということを含めて、その懸念や不安を払拭することができるのであれば、やはり丁寧にそのような取組は取っていただくべきであろうというように思います。

【記者】:転覆事故に関しては、SNSで非常に注目をされているのは知事もご存知だと思います。亡くなられた高校生のご遺族も投稿サイトで発信を続けておりますし、先日の演説会でも赤嶺前衆議院議員も触れられましたけれども、事故の責任を追及したりだとか、あるいはその船の運航団体を批判したりとか、様々な角度からの投稿が見られます。SNSを巡っては最近、大型選挙を中心に選挙への影響の大きさが指摘されているところです。この事故がずっと注目され続けている中、知事選に与える影響なんですけども、事故を巡るSNSの発信が知事選になんらかの影響を与えるかどうか、もしくは全く与えないだろうという風に言い切れるのか、どの

ように思われますか。

【知事】:一つの世論の方向性として、知事選に全く影響がないということは言い切れないというように私は受け止めております。つまり、色々な方々の考え方、思いが、この知事選に限らず、選択をする民主的な手続きである選挙という場においては様々な選択判断の1つになる、ということは、例えば基地問題であれ、今回の事故のことであれ、あるいは子供の貧困の問題であれ、色々な選択の判断基準というか、それぞれの有権者の方々の考え方が投票行動に反映されるであろうというように、一般的にはそのように受け止めています。さはさりながら、この判断が、「間違った情報」によって判断されることがあってはならないと思うんですね。ですから、確認ができていないにも関わらず、さもそれが「事実」であるかのように、例えば沖縄県がヘリ基地反対協に参加をしているとか、あるいは何らかの補助金を出しているとか、ありもないことを、さもあるかのごとく書いていることを、私は「拡散する」ことも、そういうような間違った判断を広めている、助長しているということに繋がってしまうと、ひいてはそれが、例えば名誉毀損であるとか、業務上の妨害であるとか、そういうような厳しい判断をせざるを得ないような表現方法があるわけですよね。ですから、私が本当に望みたいのは、事実は事実として、私たちも事実を認めつつ、その事実をどう受け止めるかということについて、その対応を真摯に誠実に行っていくことが大事だと思うんです。で、そのことも含めて、SNSの言論空間の中で、本当に間違ったことや正しいことが、何て言うんでしょう「ないまぜ」になって、ある意味でいうと「ごちゃまぜ」になって、それが本当であるかのような状況は、きちんと注視をしていただきたい、気をつけて見ていただきたいし判断していただきたいというようにお願いしたいと思います。

【広報監】:そろそろお時間でございますが、残りあと1～２問程度。

【記者】:今の知事の回答に関連してお伺いします。おっしゃるようにSNSではいろんな情報が飛び交っております。そうした中、我々オールドメディアと揶揄されますが、我々がその事実を1つずつ確認していくことが大事だと思ってますので、是非お願いいたします。知事が、先月の21日に献花された際に、現場海域から約4km離れた「瀬嵩の浜」で花を手向けられましたけれども、この件についてはSNSで、なぜ船が出航した辺野古漁港ではなくて瀬嵩の浜だったのかといった声も散見されます。この、「なぜ瀬嵩の浜を選ばれたのか」というのをご説明いただいてよろしいでしょうか？

【知事】:特に、その場所をどこということで、何らかの特定や限定をしたことではなく、瀬嵩の浜からなら車で乗り付けてすぐその浜辺に歩いていけるということと、実際に事故があっ

た場所を見通すことができるということからすると、まぁウチナーンチュしての考えはですよ、何て言うんでしょう、気持ちを届けるということにおいて、その場所が確認できることっていうのは非常に大きなポイントになると思うんですね。それがだから、どこからとか、近いとか遠いとかではなくて、「見通せるところ」にその追悼の気持ちを届けたいという、その考えから瀬嵩の浜を選択させていただいたということですので、特に、近いとか遠いとかというようなことで場所を選んだわけではないということが事実です。

【記者】:もう1つすいません、お時間いただきまして。ご遺族の方は、キャンプ・シュワブの司令官の了解のもと、一番現場海域が見渡せるキャンプ・シュワブで献花をされてます。知事は献花されるまで1ヶ月あまりだったと思いますけど、調整をすればキャンプ・シュワブからの献花も可能だったかと思われますけど、それはいかがでしょうか？

【知事】:はい、もちろん調整をすればそれも可能だったと思いますが、4月21日は、毎年伊江島での村主催の慰霊祭、そして灯台の殉職された方々への献花に合わせて、公務としてそれを行わせていただいています。ちょうどその日に、その帰りがけに一緒に時間を取ることができればありがたいということで、直接、シュワブの方との調整を図るのではなく、瀬嵩の浜から、どなたでも献花をすることができる場所から、献花をさせていただこうということで行わせていただきました。

【記者】:調整はされてないということですか。

【知事】:調整は特にしておりませんでした。

【記者】:ありがとうございます。

【広報監】:最後の一問になります。

【記者】:話題変わりますが、6月23日の戦没者慰霊式典について伺いたいと思います。県としてはコロナ禍を除いて、例年、内閣総理大臣を招いていると思うんですけれども、インターネット上の署名サイトで、今回、高市総理ということで、招待しないでほしいというような署名も行われていると承知しているんですけれども、県として現状、内閣総理大臣を招待する予定があるかというところをお伺いします。

【知事】:ネット空間においては、様々なご意見があるということも承知をしておりますが、

現在、招待者については担当部局において調整を進めさせていただいています。

【記者】:最終的に確定するのはいつ頃になりますか？

【知事】:最終的に確定するのは・・・いつまでということではなくて、いつお返事をいただけるかで確定するという形になっているかと思います。

【記者】:現状、首相には案内を出してるんですか？

【知事】:例年ですと例年通りの招待対応ということになっているかと思います。

【記者】:ありがとうございます。

【広報監】:お時間でございますので、これで本日の記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【知事】:はい。ニフェーデービタン、ありがとうございました。